

第2回嬉野市未来技術地域実装協議会 議事録

1. 開催概要

日時：2021年12月23日（木） 14:00～15:30

場所：嬉野市文化センター 2階会議室

2. 議事

（1）嬉野市未来技術地域実装協議会委員の追加について（案）

- ・ 久留米工業大学東大輔教授の委員の追加について説明
- ・ 東教授より久留米工業大学の取り組み紹介



協議会の様子

（2）各プロジェクトチーム会議の報告及び令和4年度実施事業の方向性について（案）

- ・ 事務局資料説明

3. 意見・質疑等

佐賀県

- ・ VRの技術で、いろいろとバーチャル空間で嬉野市のことを見ることができるということであるが、アバターロボットを入れてみても面白いのではないかな。

事務局

- ・ 実空間の紹介とするか、アバターロボットを導入するかは検討しているところである。嬉野の魅力を2022年11月にまずどちらで実践するのか、それぞれ楽しさがあると思うのでPT会議のほうで決めていく。

佐賀県

- ・ 佐賀県の取り組みの中でアバターロボットに取り組んでいるところがある。適宜状況を共有したい。

佐賀県

- ・ パーソナルモビリティを試行導入することだが、自分で運転するタイプなのか、自動運転機能が付いているものなのか。

事務局

- ・ PT2の会議の際にも、自動運転にこだわらず、キックボードのタイプもあるのではないかなという意見があった。自動運転という高みに置いた検討をしていきながら、若者等のニーズも捉えながら、嬉野での魅力増進にフィットする導入内容も検討していく予定。

嬉野市商工会

- ・ そもそも嬉野市の5G等のネット環境、通信環境として、技術的に大丈夫なのか。

事務局

- ・ バーチャル空間の導入はインターネット環境の下で実施することを前提として考えているが、5G環境の整備については、現状として嬉野市に整備することは厳しい状況であることは認識している。まずは光ファイバー＋WiFi通信でできることを考えており、地元ケーブルテレビ会社との協力を得ながら進めていけると良いと考える。

嬉野市商工会

- ・ バーチャルで嬉野市を見てもらおうということであれば、「嬉野市に来てもらう」視点で考えると、博多駅や羽田空港で取り組んで紹介するべきではないかを感じる。

事務局

- ・ そのとおりと考える。計画では、県外を含めたプロモーションのための予算が確保できればと考えている。今回の取り組み成果はデジタル・可搬性があるものもある為、嬉野市ではない別のところで活用することは検討していく。
- ・ 市中で行うことについては、例えば、来訪いただいた季節と違う季節の嬉野市を見てもらうことで、また別の季節に来たい、とっていただけるなどの魅力を伝えたいと考えている。

嬉野市商工会

- ・ バリアフリー観光ツアーに現在取り組んでいるが、100人の障がい者がいれば100人のバリアフリーがあるので、例えば、1センチの段差も登れないという人もいるという観点も考えておいてほしい。ストレッチャーで意識が無い方も嬉野の旅館で受け入れたことがある。「一人も漏らさず、どんな人でも旅行で利用できます」というのがバリアフリーツアーの観点として取り組んでいるので、こうした考え方も取り込んで行っていただきたい。

事務局

- ・ 新幹線開業時に適用する最初のパーソナルモビリティは、現時点では車いす形状を想定している。すべての人に向けて提供できるとは言えないが、今後嬉野のバリアフリーの道筋も考えて取り組めればと考える。

現地支援責任者(国土交通省)

- ・ PT2のパーソナルモビリティと自動運転について、これまで乗ったことが無い方も多いと思う。まず委員の方から試乗会などの機会を設けるなどを考えてみてはどうか。

事務局

- ・ どのような形でできるかはわからないが、検討したい。

現地支援責任者(国土交通省)

- ・ できるだけ早い時期に体験できるとよい。自動運転サービスについては、本格的な自動運転ではなくとも、グリーンスローモビリティを使ったりすることでイメージをすることができるので検討いただきたい。

まちづくり嬉野

- ・ 今後、複数年にわたって取り組んでいくことになるが、技術的側面の取り組みは来年以降、3～5年を見据えて取り組んでいくとして、嬉野市内の現状、嬉野市で観光事業に関わる人の収益・メリットなどを踏まえて考えてほしい。「コストの圧縮」「省人化」「顧客の拡大」の3つの視点が重要。モビリティに関しても、観光客の増を狙いながら一方で人口減少・担い手減少が現実にある為、省力化・省人化ができ、かつ収益に繋がるといった目標を示すなどしなければ、他人事で終わってしまう懸念がある。もう一つは人材育成の観点で、佐賀大学との連携、若者の活用なども考えられる。

- ・ プロモーションとコンテンツ、モビリティなどに関し、総合的にデータの管理が極めて重要。モビリティに関しては、今後、発展すればするほど高齢者や言語が伝わらない人、障がい者などの需要が多くなる可能性がある。例えば、体に不自由がある人が、初めて自分で買い物をするという体験を提供できる可能性がある。これは、手ぶら観光に通じるようなものとなるので、こうした観点が仮想空間の取り組みとモビリティの取り組みの接点となるのではないか。そこでデータが蓄積できていれば、他の観光地へ展開が可能となる。こうした観点で行くと決済システムの導入も重要な視点となる。

事務局

- ・ 決済機能の取り組みは難しい部分もあるが、おっしゃる通り担い手、事業者の収益に繋がるような取り組みにしていきたい。

嬉野温泉旅館組合

- ・ 全体的な長期の構想は素晴らしいが、手ぶら観光を支える自動運転サービスについて、新幹線開業時の状況はどうなるか？新しい自動運転車両で乗っていただけるような絵は描けないか？

事務局

- ・ 導入までは難しいが、開業時は既存の公共交通を利用してもらうこととなる。手ぶら観光を支える自動運転サービスの取り組みについては、新幹線開業後に人がどう動くのかを調査したうえで検討を進めたい。

嬉野温泉旅館組合

- ・ 新幹線の開業、新駅設置ということで注目が集まるので、普通のバスや普通のタクシーがあるよりも、その時に自動運転サービスがあった方が、インパクトがあってよいのではないか。

事務局

- ・ 低速走行のモビリティを持ってきて開業時のインパクトを与えるという点も検討したい。

嬉野市長

- ・ 旅のワクワク感をもたらすような工夫を、官民挙げてできたら良いと考えている。

嬉野温泉観光協会

- ・ 観光協会や旅館組合で連携して荷物を運ぶシステムを考えた方が良いということか？

嬉野市長

- ・ 別府では、ヤマト運輸と連携した事例があると聞いている。

佐賀県

- ・ 高齢者の移動手段やコミュニティバスから自宅までの移動の問題を考えるとパーソナルモビリティの実証実験は非常に興味深いと考えている。例えば、駅で乗り捨てたパーソナルモビリティが自動的に元の位置に戻る等、運用面の課題も含めて進めていただきたい。

現地支援責任者(国土交通省)

- ・ デジタルコンテンツ化の中で、嬉野市に来訪した直後にモデルツアーが設定できるとか、タビ前においても個人の趣向を入力するとモデルツアーを組んでもらうような、案内や交通も含めた「観光型 MaaS」のようなものは考えているのか。

事務局

- ・ 現在のところ、旅マエ・旅ナカ・旅アトの観点と、2022 年開業時に向けて具体に行うことを計画しているので、観光 MaaS までは明確に明示しておらず、まずはデジタルコンテンツをどう展開していくか等の観点を明示している。PT1,PT2 の取組が繋がってくると、おっしゃる通り観光 MaaS に繋がると考えている。
- ・ 来訪されたときに「嬉野観光 = 温泉と湯豆腐目的」といった方に、「茶時」や「肥前吉田焼」、おすすめスポットなど、プラスアルファの提案ができるようなことが、旅ナカにできたりすることができるようになればよいと考える。

嬉野温泉旅館組合

- ・ 直接的にこの構想とは関連しないが、駅前の道の駅などの整備の進捗状況と、新駅開業時に店舗等がオープンできるのか教えていただきたい。

事務局

- ・ 駅前の整備状況について、新幹線の開業が来年の秋ごろとされている中で、観光文化交流センター、イベント広場、公園については、開業時に同時にオープンする見通しとなっている。まちづくり嬉野でやっていただく飲食店等は同じタイミングでオープンできるものと考えている。それ以外の施設等については、順次、成長していくというイメージを持っている。

嬉野温泉旅館組合

- ・ 開業時の一番列車を降りた時に店が何も無いというのは寂しいと思っていた。

嬉野市商工会

- ・ 断片的な情報であるが、最近の外部の動向について知っていることをお伝えする。コロナがきっかけでオンラインツアーについては、5000 円で 5 施設というバーチャルツアーが売れるようになったと聞いている。
- ・ キックボードについては時速 20km/h 以下のものは無免許で可ということになりそうだと聞いている。こういった情報も参考になれば、と考える

事務局

- ・ 道路交通法改正の話は直近で記事に出ていた。

事務局

- ・ モビリティについては公共交通や、宿が送迎するための車両、マイクロバスなど、様々なモビリティを整理しながら、嬉野全体が魅力ある街にするための仕掛けを作っていけたらと考える。

嬉野市商工会

- ・ タクシーの利用も視野に入れるのが良い。

嬉野温泉観光協会

- ・ タクシーだけでは賄えないだろう。

事務局

- ・ 次回開催は 2 月末か 3 月初めを予定している。また協議会に先だって、2 月半ばに PT1,PT2 の会議を実施する予定。

以上